

令和3年度 西地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	令和3年12月9日	法人名	社会福祉法人 緑陽会
行政評価実施日	令和4年1月12日	責任者	池崎 一士
運営協議会開催日 (書面開催)	令和4年3月29日	所在地	苫小牧市青雲町2丁目12番17号
		連絡先	61-7600

地域情報	
担当地区	ときわ町、澄川町、のぞみ町、美原町、青雲町、明德町、宮前町、もえぎ町、字樽前、錦西町、北星町、字錦岡
高齢者人口	8,813 人(R3.10.1現在)
高齢化率	35.3 %(R3.10.1現在)
地域特性	高齢化率が高い地域であり、樽前・明德地区を中心に病院や福祉施設が存在し入院、入居者の高齢化も進んでいる状況。公営住宅は明德町にあり長年住んでいる住民が多い。高齢化や独居高齢者の増加が続いているが、70代の夫婦戸建て世帯も多い地域である。三世代の繋がりも多いようで、孫からの相談件数も多い。幾分若年層の転入も増えている。各町内会においては高齢化に対して防災・見守り体制の構築、ふれあいサロン開催、独自に独居高齢者訪問を行うなど活発な町内会活動が行われていたが、コロナウイルス感染症の影響で活動が停止し身体機能が低下したと思われる高齢者が始めている。のぞみコミュニティーセンターで各種教室が展開されており、通いの場として活用されている。圏域全体が市内中心部から遠く、通院や買い物等の不便さがある。町内に開設しているグループホームや介護施設、病院は町内会との交流に積極的なところが多い。樽前地区では通院困難な状況やサービスが限定されてしまう状況にある。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 2 人	常勤職員 4 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 1 人
社会福祉士 1 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 4.4 年

総合評価	
自己評価	行政評価
ケースによってチーム対応や迅速なスクリーニングを行い対応できた。アウトリーチにも心がけた。ケア会議と地域診断により、段階的に地域支援を開始することができた。一時期マンパワーが充足されたことで、課題解決に向けた足掛かりを作ることができた。	職員間で前年度の課題をもとに、センター運営や計画的に地域のつながり、地域づくりを進めている。今後は地域ケア会議や認知症初期集中支援チーム等をうまく活用しながら、地域課題を積み重ね、地域づくりや資源開発等に取り組むことを期待する。また、運動を含め活動意欲の高い高齢者が多い特徴を生かし、自主活動への広がりを推進していくことを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
	自己評価	行政評価
特記事項	随時・朝と月1回内部ミーティングを活用し支援ケースの検討や業務関係の周知等は徹底している。今年度も研修は少なかったが、ZOOMも活用し、できる限り多くの研修に参加するように心がけた。苦情発生時は内部協議にて検証を行い、法人の第三者委員に報告し、意見を仰ぐ環境は整備できている。個人情報管理においてはUSB、個別台帳を含めロッカーの施錠を徹底し管理に努めている。	センター内でミーティングを重ね、地域の実情に合わせて、支援をするなかで必要と感じた研修を企画し、実施している。今後も業務の進捗確認を徹底しながら、PDCAサイクルを意識した活動を継続していただきたい。
2 共通的支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	地区民生委員・町内会への説明と講話に出向きサロンなどへの参加を通じて、地域活動や早期相談に繋げてきた。まだ地域は限定されているが、地域に即した見守り活動を支援出来てきている。GH等の運営推進会議などを通じて包括の役割等の周知を可能な限り行っている。これらの機会と地域住民や民生委員からの相談等から、社会資源や地域課題の把握も行っている。包括の役割などを記載したチラシを作成し徐々に配布地域を増やしてきている。	地域の民生委員や町内会、生活支援コーディネーターと協力しながら、地域の見守り活動に取り組んでいる。また地域の実情から、独自でがん患者に対するチラシを作成し配布するなど、地区調査を踏まえた地域活動を行なっている。今後も、資源の把握、開発に向け、積極的に地域のニーズを把握し、取り組みに活かしてほしい。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	相談対応は迅速さを考えながら職種の専門性を踏まえ、対応策を検討し、チームで対応している。ケース担当と相談受付者が不在であっても記録を印刷し、全員で確認できるようにしており、情報共有は継続的に行っている。地域課題を常に意識した対応を取っており、段階を追って解決に向けて動き出している。運営推進会議や介護予防教室の中で消費者被害などの情報提供を随時行っている。	相談対応におけるスピーディーさと三職種の専門性を意識した行動に努めている。今後もセンター運営全体に関する課題や地域の課題を職員間で共有し、課題整理と改善策をとることを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	定期的な合同研修会・事例検討会(しらかば包括と合同)がコロナウイルス感染症の影響で未だに開催できていない。困難事例を始めとしてケアマネからの個別相談には適切に対応し、情報提供、状況に応じた同行訪問や関係機関との橋渡しなどの対応は継続できている。ケアマネ変更の支援も多い。個別地域ケア会議の積み重ねは必要と考えているため、回数増と他会議への参加を今後も計画していく。	コロナウイルス感染症の影響で例年実施している介護支援専門員との研修や事例検討が実施できなかったため、このような状況下での実施方法を検討し、包括的ケアマネジメント支援につなげていただきたい。また、地域ケア会議の目的を再確認し、定期的に地域ケア会議を積み重ね、そこから発掘した地域課題を具現化することを期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)介護認定の非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
	自己評価	行政評価
特記事項	介護予防や総合事業のサービス利用に留まらず、地域資源や民間事業者の紹介なども織り交ぜ自主的な活動が可能になるよう支援を行っている。介護予防教室から発展したサロン活動の自主運営にも支援を行っている。非該当者への社会資源の調査から始めていく必要がある。	地域ニーズを把握し、自主グループの立ち上げ支援を進めている。現在、作成に取り組んでいる、圏域の社会資源情報等を活用し、自立支援の視点で介護予防に今後も取り組んで欲しい。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
	自己評価	事業評価
特記事項	認知症関連の相談や対応は増加しており、地域勉強会を開催し始めている。小・中学校でのサポーター養成講座開催時は参加し、来年度メイトとしても活動予定である。認知症まもりたいとの協働も検討を予定している。初期集中に関してはノウハウを学び、ケースは少ないが学びが多かった。しかし、支援推進員との打ち合わせ不足による混乱があった。	高齢化率が高く認知症関連の相談が多いという地域の実情から、認知症地域支援推進員と協力し、認知症の地域勉強会を企画・実施している。今後、センター内にキャラバン・メイトの職員が誕生し、サポーター養成講座や搜索模擬訓練が開催できること、また、認知症地域支援推進員と連携し、地域づくりに取り組むことを期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	可能な限り入院時の情報提供や退院支援の迅速さを考え、入院先等との情報を把握し必要な対応を行っている。又、受診支援においても対象者への確認の元、情報提供等を行っている。地域特性からか、癌患者への対応が増えており、包括内部研修の実施と地域へのチラシの配布を行っている。	緩和ケアを必要とするケース等を支援するうえで、とまこまい医療介護連携センターや医療機関、各事業所と情報共有を図りながら連携を密にした対応を心がけている。今後も医療介護連携がより推進されるよう、継続的な働きかけを期待する。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか		
	自己評価	行政評価
特記事項	昨年開催した地域ケア会議を基に、社協とも協力し、地域支援を行った。コーディネーター等とはケース会議を通じて、更なるネットワーク構築を目指していく。	定期的に生活支援コーディネーターと打ち合わせを実施し、地域づくりについて協議、連携を進めている。一方、地域ケア会議の活用が進まなかったため、地域ケア会議の目的等を再確認し、圏域の地域課題を整理した上で地域づくりを進めることを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
	自己評価	行政評価
特記事項	保健師が町内会のふれあいサロンに参加し、予防活動の普及を継続する中で介護予防の他にも個別案件の相談や情報を把握しセンター内で共有している。教室参加者が立ち上げた自主サークルについては引き続きスタッフから相談を受け、情報提供やアドバイスなどで側面的な支援を継続している。運動意識が高い地域住民のため自主サークルの拡大の働きかけも継続していく必要がある。	コロナウイルス拡大の中でも、民生委員の会合に足を運び、地域とのつながりを進めている。今後も自主サークルのサポート等を通じ、住民の積極的な介護予防活動を支えるための支援を期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

<p>1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容(特に好事例の紹介)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初マンパワーの充足、向上ができ、個別支援と地域支援活動に積極的に取り組むことができた。 ・ワンストップサービスに心がけることができた。 ・昨年開催した地域ケア会議を基に、もえぎ町、澄川西と樽前において、社協と協働し、見守り支援や地域支援の活動を行うことができています。 ・民生委員等の会合に参加することで、早期に相談を受けることができ、解決に向けられるケースも多かった。
<p>2 今年度事業の達成状況及び成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・内部ミーティングを定期化し、情報の共有と協議を行うことができ、地域への活動も拡大することができた。 ・チームでの対応も定着し始めている。 ・介護予防教室活性化並びに待機者解消・地域づくりのために、自主組織立ち上げを計画したが、指導者の体調不良により頓挫した。 ・介護予防、早期発見、悪化防止のため、医療機関等の関係機関と早期発見ネットワークを構築していく予定であり、地域へのチラシの配布を始めている。 ・地域特性としての戸建て夫婦世帯への情報提供や支援策について、もえぎ町で実践を始めている。 ・介護予防マネジメント等の相談支援体制については、アウトリーチと終結を意識しながら実践している。
<p>3 達成できた又は達成できなかった原因</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議について、地域を巻き込んで支援が必要と捉えられるケースが少なかったことと、地域支援まで拡大していくパワーも少なかった。 ・認知症初期集中支援チームについては、認知症に関する相談はあるが、早期の段階が多く、担当者の実力も上がり対応できたケースが多かった。
<p>4 課題及び今後の取組</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・マンパワーの充足とチームアプローチの充実 ・介護予防の意識を高めるための活動強化と自主組織立ち上げのための支援方法の検討 ・ボランティア組織(声かきあり)の構築と地域とのマッチング ・癌を中心とする早期発見ネットワークの構築 ・地域ケア会議並びに地域診断・社協との協議による、各地域の問題解決支援の拡大 ・認知症施策推進(メイトの養成、みまもりたいとの協働、地域勉強会、徘徊模擬訓練等の実施)